HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	1歳6か月児健康診査における萌出歯数の33年間の推移と萌出歯数に関連した因子の検討 [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	三好, 健太郎
Citation	北海道大学. 博士(歯学) 甲第13488号
Issue Date	2019-03-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/73855
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Kentaro_Miyoshi_review.pdf (審査の要旨)

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称　　博士（歯学）　　氏　名　三好　健太郎

審査担当者　主査　教　授　八若　保孝
副査　教　授　土門　卓文
副査　准教授　兼平　　孝

学　位　論　文　題　名

1歳6か月児健康診査における萌出歯数の33年間の推移と
萌出歯数に関連した因子の検討

審査は審査担当者全員出席のもと、はじめに申請者より提出論文の概要の説明が行われ、審査担当者が提出論文の内容および関連した学問分野について口頭により試問する形で行われた。審査を行った論文の概要は以下の通りである。

本研究では、1歳6か月児健康診査における乳歯の萌出歯数の33年間の推移と、萌出歯数に関連する因子の解析を目的とした。

対象は1980年から2012年まで北海道江別市の1歳6か月児健康診査の受診児、27,454名である。歯科健康診査と身体計測結果に基づき、男女別に、年次ごとの1人平均萌出乳歯数、16歯以上保有者割合、癒合歯保有者割合を算出し、年次との関係を回帰直線で求めた。さらに、出生年、性別、出生順位、出生体重、1歳6か月時の身長、同胸囲、癒合歯数、母親の年齢を説明変数、16歯以上萌出の有無を従属変数としてロジスティック回帰分析を行った。

その結果、1）出生時体重、1歳6か月時の体重、同身長、同胸囲、1人平均萌出乳歯数、および16歯以上保有者割合は、男女とも経年的に減少した。年次（ｘ）から1人平均萌出歯数(y)を求める回帰直線の傾きは男児-0.0188、女児-0.0181であった。 2）1人平均萌出歯数は男児が女児より多い傾向にあった。3）癒合歯保有者割合は年々増加する傾向にあり、男児の方が女児よりもその傾向が強かった。4）16歯以上萌出については出生体重、1歳6か月時体重、1歳6か月時身長と有意な関連が見られた。

以上から、ここ33年間では、乳歯の萌出が遅れる傾向にあり、乳歯の萌出には児の出生体重や1歳6か月時体重、 1歳6か月時身長が関連している可能性が示唆された。

審査担当者により、研究内容および関連事項について以下の質疑応答がなされた。

１）調査対象群の中における各種症候群を有する者の割合
２）北海道江別市の児童と全国平均の児童の体格差についての比較
３）癒合歯の好発部位について
４）本研究における二項ロジスティック回帰分析の従属変数の設定根拠について
５）歯種別における萌出遅延の有無について
６）1 歳 6 か月児健診から得られた本研究の傾向は、同様に 3 歳児においても認められるものか
７）1 歳 6 か月児健診から得られた本研究の傾向は、同様に海外の児童においても認められるものか
８）論文で報告した調査結果以外に認められた傾向などはあるか

これらの質問に対して、申請者から適切かつ明確な回答がなされた。試問を通じて、申請者が本研究について十分に理解していること、ならびに関連分野に関する幅広い知識を有していることが認められた。本研究によって得られた知見は、今後の歯科医療に重要な示唆を与えると考えられ、 学位論文に値する意義のある研究と評価された。

以上のことから、審査担当者全員は、申請者が博士（歯学）の学位を授与されるに値するものと判定した。